

# 私のひびく

どーが、  
見でけらっしやい。

尾花沢ふるさと大使(名木沢出身)

あべ美佳(作家・脚本家)



尾花沢の美しい景色と画になる地元エキス・トラさんがいっぱい映っている映画「いしゃ先生」は、本年1月6日(土)から、いよいよ全国公開がスタートしました！

先の山形県先行上映はおかげさまで大盛況、超ロングランを今も記録中です。観客動員数も(12月15日現在で)1万8千人を超えました。同時期に公開された並み居る大作映画を相手に、山形県では3週連続で1位を記録し、中央の映画業界でも大変話題になっています。皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。もう少しです。もしまだ見ていない方がいらっしゃったら、この正月にでも劇場までお運び頂ければ幸いです。どーが、見でけらっ

しやい。

我々は当初から「映画」を作ることが目的ではありませんでした。映画はあくまで手段、目的は「地域おこし、町おこし、人間おこし」です。完成まで足掛け5年もかかりましたがその難儀な分だけ関わってくれた方も増え、応援団も増え、その輪は全国へも広がっていきましました。中でも、私の地元、おばねの方々には本当にお世話になります。心から感謝しております。どれだけ言葉尽くしても足りません、ほんてん、ありがとうございました！

ふるさと大使として、私のお役目は、尾花沢の、そして山形のファンを一人でも多く増やすことだと思えます。「いしゃ先生」を通じて、おばねファンは確実に増えました！ 俳優・スタッフ一同、お母さん方の炊き出しに胃袋をつかまれ、きちんと

人の手のかかった美しい里山の景色に胸をうたれ、おばねに惚れてくれました。東京でもあっちこちでその話が出ます。口コミほど強い(怖い)ものはありませんから。作戦成功、しめしめです(笑)。誰を連れて行くことも、誰に紹介しても、必ず「おばね」を褒めてもらえることに、私は誇

りを感じています！

結局最後は「人」だものね。おばね、ばんざーい！ これからも、故郷を全国へ、世界へ、どんどん広めていきますので、皆さん、どーが、引き続きよろしくお願ひします。故郷の皆様にも、今年もいっぱい楽しいことがありますよ(こ)。



父のたのみで、  
私は、故郷の  
無医村の女医になった。

発行／山形県尾花沢市議会 編集／市議会だより編集委員会

## あとがき

暖冬の年末年始で、今年にない尾花沢を経験しています。

先に発表された国勢調査の結果に衝撃を受けた方も多いと思いますが、どんなに人口が減少しても安心して暮らせるように共に知恵を出し合い、持続可能な尾花沢を目指しています。必要なのは、尾花沢が大好きなこと信じています。

市議会だよりは88号になり、市民の方々に喜んでいただけるよう努めてまいります。

(小関 英子)

- 市議会だより編集委員
- 委員長 塩原未知子
  - 副委員長 小関 英子
  - 委員 大類 好彦
  - 委員 笹原 和子
  - 委員 伊藤 浩
  - 委員 鈴木 清
  - 委員 鈴木 裕雅



市のホームページから 市議会インターネット中継・録画も見てください！

尾花沢市議会 検索 [www.city.obanazawa.yamagata.jp](http://www.city.obanazawa.yamagata.jp)

# おばなざわ 市議会だより 迎春

## 88号

平成28年1月15日発行

尾花沢出身\*名木沢在住  
武田 成未さん

東根市出身\*鶴巻田在住  
大越 智明さん

大崎市出身\*名木沢在住  
都築 愛里さん

埼玉県熊谷市出身\*市野々在住  
若林 香朗さん

## われらか地域おこし協力隊

都市地域の若者が市内集落の住民として生活し、地域おこし活動への協力などを行い、地域の活性化を目指す全国的な事業です。市では今年度も市野々、名木沢、鶴巻田地区内の空き家に隊員の宿舎を設け、市民として生活し、「福原田んぼファーム」や「無料学習相談室」など地域おこし、子どもたちの活動を行っています。受け入れ事業を開始して6年目の尾花沢市。平成27年度の地域おこし協力隊員は現在4名が各地で活躍しています。



山形県尾花沢市地域おこし協力隊Facebook

※表紙写真は若林香朗さんの発案で冬休み各地区で開催している無料勉強相談会の様子です。

## 12月定例会・11月臨時会

- 12月定例会・議会日誌……………2
- 11月臨時会……………3
- 一般質問……………4
- 先進地に学ぶ……………8
- 議会改革検討委員会……………10
- 広域組合議会報告……………11
- 私のひとこと・あとがき……………12

# ふるさと応援基金・高齢者除雪扶助費など

一般会計5億604万円 国民健康保険特別会計1億1,030万円 介護保険特別会計7,100万円

補正予算を  
可決

平成27年12月定例会は、12月4日から11日までの8日間の会期で開かれました。  
4日に加藤市長から市政概況報告、平成27年度補正予算4案件を含む12案件と議案1件が上程され、請願1案件は常任委員会に付託されました。  
8日・9日は7人の議員が一般質問を行い、市政全般について当局の考えを質しました。  
最終日に本会議が開催され、当局から提案された全議案と議案は慎重審議の結果、いずれも原案のとおり可決されました。

## 議案の審議

**Q** 廃校になった学校のピアノの移動は、どこからどこへ移動したか。また、移動する業者は地元業者に頼んでいるか。



ピアノ移動

**A** ピアノは、市内学校のバランスを考慮して移動しました。業者については、可能な限り地元を優先したいと考えています。

**Q** 尾花沢中学校クラブ活動の、屋外照明購入はどう考えているか。照明を固定のものにして、長く使えるようにしてはどうか。

**A** 移動可能な照明を購入する予定である。スポットライトタイプのLED灯器を考えている。発電機と電源方式と両方で稼働できる。移動式のものを導入し、今後について考えていきたい。



祈願祭のようす

**Q** 市営バス宮沢線の時間帯の変更を願いたい。尾花沢中学校の生徒が通学しやすいよう、田沢・牛房野地区の時間を変更し、丹生地区のバスを利用してはどうか。

**A** 宮沢線については、朝2便を早くして、公立病院行きに間に合うように考えて陸運局と相談したが、運転手の業務時間が長くなるため好ましくないとの話

があるため、今後検討したい。  
牛房野地区の中学生通学に関しては、今後運行できるように調整していきたい。

## 11月臨時会

11月4日

### 議案の審議

**Q** 旧荻袋小学校無料貸付について、地域の活性化や雇用の拡大にどのようにつなげていくのか。また、校舎の修繕の必要はないか。

**A** 提案者のプレゼンテーションでは、地域内に働く場の確保とフルタイム・時間選択など多様な働き方のほか、地域のコミュニティーにも役立ちたいとのことである。また、修繕の必要性はないと考えている。



旧荻袋小学校

**Q** 学校の備品で、机やイスの再利用ができると思うがどのように考えているか。

**A** 先生の机イスなどは使用できると思う。契約者と協議して決めたい。

## 平成27年12月定例会賛否状況

請願番号	案件名	表決の結果	菅根 光雄	須貝 孝	菅野 修一	加藤 克彦	奥山 格	青野 隆一	星川 睦子	大類 好彦	武田 佳久	小関 英子	鈴木 清	伊藤 浩	笹原 和子	塩原 未知子	鈴木 裕雅
第9号	TPP交渉「大筋合意」は撤回し、調印・批准はしないことを求める請願	継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※批准(ひじゅん)とは……条約に対する国家の最終的な確認、確定的な同意の手続き。

## 議 会 日 誌

- 11月**
- 4日 林業活性化議員連盟役員会 産業建設常任委員会
  - 5日 11月臨時会・全員協議会
  - 6日 議会改革検討委員会
  - 7日 北村山公立病院例月出納検査 市民厚生常任委員会
  - 8日 第26回山形県少年少女俳句大会表彰式 花笠みぞれ新酒発表会 婦人防火のつどい
  - 9日 ほその村 新そば・秋の味覚まつり 米のく村山農業協同組合合併20周年記念式典並びに祝賀会
  - 10日 おばなざわ花笠まつり部会合同会議 産業建設常任委員会行政調査(11日)
  - 11日 尾花沢市平和を願う集い
  - 12日 第45回尾花沢市遺族大会
  - 13日 山形県市議会議長会議会報研修会
  - 14日 尾花沢警察署庁舎落成式
  - 15日 第46回全国過疎地域自立促進連盟定期総会
  - 16日 平成27年度尾花沢市青少年健全育成市民集会 除雪車出動式
  - 17日 福原工業団地現場視察
  - 18日 県市議会議長会定期総会(18日)
  - 19日 議会連合委員会行政調査
  - 20日 国道13号整備促進期成同盟会総会
  - 21日 議会改革検討委員会(世話人会)
  - 22日 市民厚生常任委員会
  - 23日 林業活性化議員連盟研修会
  - 24日 総務文教常任委員会
  - 25日 議会連合委員会、会派会合 全員協議会
  - 26日 議会改革検討委員会
  - 27日 NPO法人花笠就労支援センター落成式
  - 28日 県知事及び県議会議長への要望実行運動
  - 29日 北村山公立病院例月出納検査
  - 30日 12月

- 1月**
- 4日 本会議
  - 5日 議会だより編集委員会
  - 6日 尾花沢市商工会定期講演会並びに会員交流会
  - 7日 本会議(一般質問)
  - 8日 本会議(一般質問)
  - 9日 本会議(一般質問)
  - 10日 議会連合委員会
  - 11日 全員協議会
  - 12日 本会議
  - 13日 ふるさと振興公社勉強会
  - 14日 尾花沢産山ぶどうワインの新酒を祝う会
  - 15日 議会だより編集委員会
  - 16日 北村山公立病院議会連合委員会
  - 17日 北村山広域行政事務組合議会連合委員会
  - 18日 会派代表者会
  - 19日 花笠高原スキー場開き
  - 20日 「幻酒翁山」新酒発表会
  - 21日 おらほの宝シンポジウム2015
  - 22日 産業建設常任委員会行政調査報告会
  - 23日 市民厚生常任委員会行政調査報告会
  - 24日 北村山広域行政事務組合議会臨時会
  - 25日 環境衛生事業組合議会臨時会
  - 26日 北村山公立病院組合議会定例会
  - 27日 議会だより編集委員会
  - 28日 1月
  - 29日 無火災祈願祭
  - 30日 市民新春祝賀会、市民賞授賞式
  - 31日 北村山公立病院例月出納検査
  - 2日 常盤地区新春を語る会

### 継続審査される請願

◎平成27年請願第9号

TPP交渉「大筋合意」は撤回し、調印・批准はしないことを求める請願

尾花沢市農業を守る会 会長 菅野 駿

### 人口減少を恐れず、宝を磨き交流人口の拡大を！



塩原未知子議員

**Q** 警察署移転に伴い、横町、北町周辺の変化が著しい。新庁舎建設を前に本町地内の老朽化、使用不可公共施設（旧市民会館・旧尾花沢地区公民館・サルナート研修棟）はいかに。

**A** 通行により宝永牧場から銀山十分一や、銀山温泉から鶴子方面への林道を見直した新たな観光ルートが重要となってくる。総合戦略では交流人口の目標値を200万人としているが、観光戦略とビジョンはいかに。

**Q** 旧尾花沢公民館は解体後立て替え、祭り屋台の格納庫と併せた複合施設として検討し、研修棟は解体し、新庁舎建設の際に使えるスペースを確保する計画だが、警察跡地や周辺公共用地活用は地区の活性化につながるよう住民の声を聞き検討する。

**A** 特産品や銀山温泉、徳良湖、宝栄牧場などの地域の宝である観光資源を活かし、自動車道の整備やICT活用など最大限に活かした戦略を推進していく。拠点施設に防災時にも使える無料Wi-Fiを整備、看板や事前情報の発信と着地型の旅行メニューや受け入れ体制を整備強化していく。

**Q** 地震や豪雨災害が頻繁で心配だ、災害が発生した場合、災害対策本部、消防団および自主防災会の体制はいかに。また銀山川のハザードマップの策定などにも対応したい。

**A** 防災時には消防団自主防災会は消防計画に定め基づいて行動し、消防団員は、震度4の時は班長以上、震度5以上の場合は全団員が所属ポンプ庫に参集する。自主防災会は、区長・情報班・消火班・救出救護班・避難誘導班・給食給水班の班編成で、区長指示のもと活動するが災害対策本部より消防団や自主防災会へ応援要請する場合もある。防災行政無線は新年度早々稼働予定しており、代表区長と協議しながら運用基準を策定していく。また9月の豪雨被害により避難所体制や銀山川の水位計の通信体制、ハザードマップの策定など県とも相談して早期に対応したい。



新鶴子ダム



伊藤 浩議員

**Q** 新鶴子ダムから冬季間に流雪溝へ利用できるとの状況は。

**A** 当初は新庁舎への一元化を進めてきましたが、職員数の将来動向や災害時のリスク分散、総事業費の抑制の観点から当面は現状の分庁舎で進めたいと考えています。

**Q** 関係機関と折衝の結果、平成25年からは事前放流が可能となった。今年度は12月から昨年より若干多い毎秒約3.2tを放流できる見通しです。

**A** 御所山県立自然公園の登山ルートで現在使用できないルートがある。今後の整備計画は。

**Q** 荒神コースで崩落などの危険があり、入山を規制している。現在山の会の皆さんが別のルートについて調査をしていただいている事もあり、新たなコース設定が可能なのか登山道整備について検討



御所山荘

**Q** 尾花沢市東部の観光開発として国道347号の通年通行を見据えて御所山、花笠高原、銀山温泉を一体的に捉えた整備が必要と考えるがどうか。

**A** 宝栄牧場も含めた一帯は非常に魅力的な観光資源と考えている。アクセスの整備として現在道路幅員が狭い場所があり、今後の大きな課題になっていると認識している。

### それで大丈夫か？



笹原 和子議員

**Q** 摘果スイカを利用した化粧品作りに至った経過や効果と安全性はどうか。またスイカの薬効をサプリメントとして商品化してはどうか。

**A** 平成23年からスイカのイメージを高めるため化粧品作りを研究し、摘果スイカから有効なエキスを抽出し開発することができ、安全性、保湿効果、小ジワなどに効果があるので、今後大いに期待される。また、スイカはシトルリンの作用で利尿効果が有り腎臓に良いため、栄養補助食品への展開も視野に入れて進めたい。

**Q** 本市は肥満度が県内2位と高く、生活習慣病も増加の傾向にあるが、食生活改善の活動状況はどうか。

**A** 本年度は減塩強化年として活動している。BMI値が高い人の減少などについては、適性食量や栄養バランスなどの知識を高めるため栄養士による講演や料理講習会などの回数を増やし、生活習慣病予防に努めていきたい。

**Q** ふるさと納税の今年度の寄付金の状況と使途金の項目に庁舎建設の寄付金の項目を加えてはどうか。

**A** 心を育てる読書、を推進するために、大人も子供も図書館利用がもっと楽しくなるように読書通帳・読書手帳を導入してはどうか。

**Q** 団塊の世代の75歳以上が後期高齢者になる2025年問題に本市では、認知症に対して、どのような対策や取り組みがあるのか。

**A** 市立図書館の開催行事の内容はどうか。心を育てる読書、を推進するために、大人も子供も図書館利用がもっと楽しくなるように読書通帳・読書手帳を導入してはどうか。

**Q** 認知症の正しい知識の普及啓発、医療と介護分野の対応力向上と連携強化、認知症の方と家族にやさしい地域づくりを挙げている。今年度試行的に認知症

**Q** 市内においてタブレット端末はどの分野でどのように活用されているか。情報を共有することで必要な情報を市民に発信することができ、膨大な資料をペーパーレス化するためにタブレット端末の使用拡大してはどうか。

**Q** 行政事務においての導入設置はまだありません。ふるさと尾花沢応援基金を活用して、小学校に41台・中学校

**Q** 市内においてタブレット端末はどの分野でどのように活用されているか。情報を共有することで必要な情報を市民に発信することができ、膨大な資料をペーパーレス化するためにタブレット端末の使用拡大してはどうか。

**Q** 市内においてタブレット端末はどの分野でどのように活用されているか。情報を共有することで必要な情報を市民に発信することができ、膨大な資料をペーパーレス化するためにタブレット端末の使用拡大してはどうか。



**Q** 平成24年ドクターヘリ就航から3年が経過し、山形県全体で1千件の出動がありましたが、尾花沢消防署管内では何件の要請と出動があり、ランデブーポイントは何箇所使われているか。

**A** 昨年は要請件数21件で出動16件でした。今年度は11月30日現在要請26件で出動20件です。不出動は、天候不良・キャンセル・日没によるものです。17カ所のランデブーポイントがあり冬期間使用可能は消防本部と道の駅ねまの2カ所です。

### 尾花沢市総合戦略をどう達成するか



青野 隆一議員

**Q** TPP交渉の大筋合意による、本市の米農家・畜産農家への影響はどうか。

**A** 米分野は輸入枠が増え、国内市場は一層厳しくなり、さらなる競争にさらされると想定している。畜産農家への影響は、牛肉価格全体の低下が懸念されるためブランド力向上に努めたい。

**Q** 安価な宅地の供給や新築・建替えに対する新たな支援の創設、移住コーディネーター設置にどう取り組むのか。

**A** 安価な宅地の供給は、子育て世帯の経済的支援にもつながる事から、北町・荒楯を宅

地供給の候補地として検討していきたい。また、助成の対象でなかった新築や建替えに、新年度から助成事業を創設し、定住をより強力に推進したい。移住コーディネーターも新年度より設置し、移住定住後の円滑な生活支援などをお願いしたい。

**Q** デマンド型交通など高齢者に配慮した公共交通の導入を、市長の任期中にやるのかどうか。

**A** 現在策定中の市総合振興計画後期計画にもデマンド型タクシーの導入計画を掲げており、冬期間の路線バスの利用を促進しながら、利用状況を検証し、デマンド型タクシーの導入も行っていく必要があると考えている。

**Q** 生活道路除雪事業・福祉隣組制度・除雪サービス事業を組み

合わせ、自己負担も含めた尾花沢市独自の除雪支援体制を実施してはどうか。

**A** 「生活道路除雪事業」は、市が行う除雪路線以外で、集落の任意団体や個人が行う除雪費に対して補助を行っている。共助による雪対策として、福祉協力員の協力を得ながら、要援護者の見守りや家事援助、屋根の雪おろし、玄関先の雪払いなどを「福祉隣組制度」がある。今年度、新たな取り組みとして「地域除雪活動への助成制度」を設置したいと考えている。地域で支え合いながら高齢者が安心して暮らせるよう、除雪の心配を取り除く「地域除雪活動」を、多くの集落で組織化して取り組めるよう支援していきたい。

### 本市人口ビジョンと総合戦略について



奥山 格議員

**Q** 本市総合戦略は、本市人口ビジョンが示す2040年の将来人口、1万1千800人の達成に向けた戦略であるが、もう少し積極的に人口減少を食い止めるための大胆な戦略が必要ではないか。

**A** 少子化対策、雇用・産業振興対策、定住・移住対策、元気な地域づくり、克雪対策の5つの目標を掲げ、これらを毎年検証したいと考えております。

**Q** 今年の米の概算払い価格が1俵1万円と提示されたが、その要因は何か。

**A** 昨年の米価下落による生産現場の危機感

から飼料用米への転換が増えたことが要因と考えております。

**Q** 農地中間管理機構へ今年度貸し出しを希望する農家数と、その傾向はどうか。

**A** 11月末現在では、貸付希望者69名55.7haとなっております。高齢化に伴う離農者、後継者、担い手不足が主な傾向です。

**Q** 今年度の新規就農者数、認定農業者の状況はどうか。

**A** 青年就農給付金受給者8名と合わせると計17名の新規就農者を把握しています。認定農業者は現在289名まで増加しています。

**Q** TPP交渉が大筋合意されたが、本市の農家に与える影響は甚大だと思いませんか。

**A** 米価の低迷は続く

への影響は小さいと推察されますが、長期的には価格低下が懸念されます。

**Q** 全国的に離農が進む現状をどのように考えるか。

**A** 中高年農業者が営農を断念し、これからの将来を託せなくなる事が懸念されます。

**Q** 市民文化祭は、参加団体、参加者が年々減少傾向にある。参加者が増えるように、これに親しみ、奨励する雰囲気醸成すべきではないか。

**A** 各団体などからご協力をいただき、出展者は増加しました。今後、芸術鑑賞会などの開催についても検討していきます。

### 「子どもの貧困」を減らすためにどうすればよいか



鈴木 清議員

**Q** 今日日本の6人に1人(16.3%)の子どもの経済的に困難な中で生活している。「子どもの貧困」を本市でどう把握し認識しているか。

**A** 子どもがいる生活保護世帯は1世帯であるが、「ひとり親世帯」に貧困率が高い傾向にある。子どもの生活や就学状況の課題の把握に努めている。

**Q** 「就学援助制度」本市の利用状況と申請方法はどうか。

**A** 利用は80人で全体の6.4%になる。小中学校の入学説明会・PTA総会で案内しているが、利用しやすいよう周知方法など研究した

い。

**Q** 経済的に困難な世帯にとつて、給食費は大きな負担だが、学校給食の一部補助、半額補助、無償化を考えるとどうか。

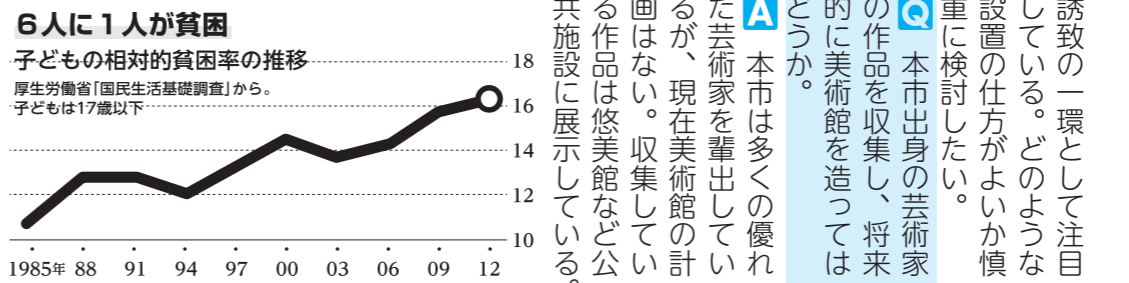
**A** 財源の確保が大きな課題であり、実施は県内の動向を注視し、慎重に対応したい。

**Q** 福祉灯油券の利用状況と今年度も実施する考えはないか。

**A** 1世帯5千円で、利用実績は68世帯になる。今年も低所得世帯の冬期間の経済的負担を軽減することが必要と判断し、実施したい。

**Q** 映画などのロケ地誘致や支援をする機関であるフィルム・コミッションを作ってはどうか。

**A** 「いしゃ先生」のロケが本市でも行われ、本市のPRと新たな観光



## 今年も花笠高原スキー場 オープンしました

PR コーナー

#### イベント予定

- ・クールモンキーカーニバル
- ・スタッフ主催イベント
- ・スキー場まつり 2/14

詳細はフェイスブック

ハナガサSlopeStyleで

総務文教常任委員会

委員長 大類 好彦

1. 高知県南国市 「地域活性化における担い手事業」

特産品の開発に力を入れており、水を一節使わないトマトカレールなどを販売している。また、ふるさと協力隊の活動として地区のアンケート調査を実施、集落活動などについて報告書にまとめて全戸配布した。公民館を中心とした祭などの催しに補助金を出している。

2. 高知市土佐山地区 「地域活性化への取り組み」

土佐山地区は人口70名の小さな地域であるが昔から教え教わる「社会学」の文化があった。県の美術館を払い下げ、土佐山アカデミーの事務所として活用している。ここでは次の100年に向け、アイデアを生み出すための活動が行なわれており、空き家の改修も大工仕事のワークショップとして展開し、4年間で15人が定住し、

他に5人が移住を検討しているとの事。また、学校の統廃合により、小中一貫校を開設しているが、100人の募集に200人が応募し抽選で98名の生徒がいる。住民も人任せにしないで自分達でやらなくてはとの意識があり、活性化につながっている。

3. 高知県神山町 「移住交流支援センターの役割」

人口が約5千800人の神山町はすだちの生産量が日本一の町。高齢化率は46%と高いが企業や移住者が集まってくる。その理由としてNPOグリーンバレーの存在が大きい。これは地域の人たちの手による地域密着型の組織であり、空き家情報を流し、移住者を募っている。移住の条件を限定できる事により、整体師や有機農業者などの個性ある移住者が多い。グリーンバレーでパン屋さんを募集したところ直ぐに大阪から

市民厚生常任委員会

委員長 星川 睦子

1. 横手市 「在宅医療連携拠点事業」

65歳以上の高齢化率が35%を占める中で「病気をもちつつも可能な限り住み慣れた場所で自分らしく過ごせる生活の質を重視する医療」が求められている事を受け、地域包括支援センターを軸とした関係機関が連携した関係機関が連携した「信頼関係・顔の見える関係で地域包括ケアの実現」を目指している。特に効率的な医療提供の為に医師会・歯科医師会との連携がきつちりと取られており地域住民への啓発活動もこまめに行なわれている。

2. 弘前市 「雪に強いコミュニティづくり」

市と除雪業者と地域住民のコミュニケーションが取れた除雪体制を目指している。地域除雪支援活動では事前に除雪受託者の登録を行なっている。間口除

3. NPO弘前子ども「子育て支援・木育活動」

放課後自由空間がらつとキャンパスを運営し、放課後の子供達の交流場所を提供している。また、JR東日本グループの子育て支援事業として青森駅内のビルでも、もくもく広場を運営している。おもちゃインストラクターによる地元の木材を使ったおもちゃづくりのワークショップやおもちゃの遊び体験ができる。

4. 五戸町 「コミュニティバス」

路線バスの利用客減少やスクールバスの増便による財政負担増、高齢者の日常生活の要支援などの課題を解消するために「乗れる、

使える商品づくり」住民の喜び意味のある負担」「公共交通はインフラ整備」を柱として平成24年からコミュニティバスとして一元化した運行体制を行なっている。財政的な効果も出ている。スクールバスが乗り合いバスになる事で、当初保護者の不安もあったが、子どもたちの自主性や規律性の向上、地域の人との交流の場としての無形効果もあるとの事。当市でも検討しなければならぬ課題である。

産業建設常任委員会

委員長 武田 佳久

1. 秋田市旬栄物産「周年農業及び6次産業化」

代表者は出稼ぎ先の紡績工場で海外留学を目指して働いている同僚に刺激され、自らも渡米し研修を積んで帰国、周年栽培が可能なハウスによる山菜や妻物の栽培を行なっている。中でもメイン商品のこごみを通年販売し更には化粧品まで加工する技術も取得した。

2. 花巻市県立花巻農業高校 「6次産業化に向けた農業後継者育成」

現在東日本大震災の復興支援活動として食農科学課では秋刀魚と白金豚を加工した「さんまーぐ」の研究開発を行なっている。奇抜な発想力と6次産業に対する積極的な取り組みにより、農業を愛する心を育み更には地域の発展に寄与する事が期待される。

3. 遠野市 「宮守川上流生産組合」

平成8年、101haの農



地に夢のある1集落1農場の実現を目指し発足。その後農事組合法人を設立。農地の賃貸借や土地利用調整、農作業の受託を行い農業機械の共同購入を行っている。農産物加工所やどぶろく製造にも取り組んでいる。

「人・農地プランの推進」

平成25年に「地域農業マスタープラン」を作成し10の地区181団体で展開している。田4千haと畑3千haのうち、平成31年度までに全体の31%にあたる2千250haを担う計画である。今後は担い手の育成や法人化の推進を進めていく。



パプリカ

4. 大衡村 ベジ・ドリーム栗原

「工場排熱を活用した周年農業への取り組み」

ベジ・ドリーム栗原は平成20年に地元の農家とトヨタ系列の食品会社が共同出資で設立した。大規模鉄骨ハウスで排熱を活用したパプリカの養液栽培を行なっている。パプリカは国内消費の93%が輸入品である事に着目し安全・安心な農産物を提供している。新農商工連携のモデル事業として取り組んでいる。

議会運営委員会

委員長 菅 根光雄

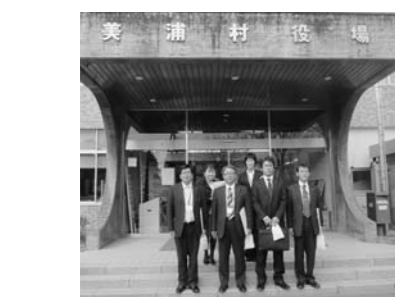
栃木県塩谷町議会 常任委員会改変の取り組みについて

昭和32年の3村合併で議員定数24人とし、昭和40年町制施行で塩谷町となった。その後人口の減少により昭和43年に定数21人に、平成4年に20人とし、4常任委員会を各5人の委員で構成していた。しかし、委員会の審議に支障をきたす恐れがあり、平成11年に3常任委員会にした。平成13年の改選時に定数を行政改革と近隣の定数削減に並行する形で18人に、平成17年に16人に、そして、平成21年に12人として2常任委員会で現在に至っている。

茨城県美浦村議会 タブレット端末導入について

美浦村は茨城県南部に位置し、霞ヶ浦に臨んでいる。人口1万6千550人と尾花沢市と近似している。議員定数は14人、3常任委員会構成している。議会と村執行部が一丸となって、住民と協働によるまちづくりの施策に取り組みしており、その一つにICT機器の導入と利活用の推進がある。

東日本大震災発生時に情報配信基盤が十分でなく、住民への情報の周知ができず、その反省から「災害に強い情報連携システム」を構築した。その整備し



# 議員定数 2 削減

次期改選時  
(平成31年)  
16名→14名

以前の任期中に議員定数、議員報酬、常任委員会等について慎重に検討してきましたが、改選後に改めて取り組むことを確認して昨年結審しました。

このたびの改選直前、無競争の予測も飛び交い、各候補者に市民の間から定数の見直しに多くの意見が寄せられ、改選後に諸般の事情により一層厳しい声をいただくようになりま

した。議会として、議員とどう対応していくのか話し合いました。そして、去る10月16日の全員協議会で全議員をもって構成する議会改革検討委員会を設置し、改革を要する分野を徹底的に改善していくことを確認したところです。各会派を代表とする世話人会で骨子を検討し、随時検討委員会を開催することに



取り組むべき項目についてその一端を申し上げれば、議員定数・常任委員会数は密接な関係があり、定数削減によって現状の3委員会維持が難しくなることも考えられます。議会として委員会の役割は大きく、その責任も重いものがあります。地域の声をどう議会に届け、市当局に要請要望をしていくのが議員に付託されています。それゆえ私たち議員は常に襟を正し、議会人として邁進していかなければなりません。また議員自らを律するためには議員政治倫理条例の設定も取り組まなければなりません。市民から信頼される議員、より良い市民生活を追及していく議員、いづれ次世代に引き継いでいける議員を目指していきたいと思いま



す。この他にも検討課題は多々ありますが、任期中に可能な限り議員の力を合わせ取り組んでいきます。その経過についてもご報告してまいります。12月定例会において、議員定数を現行の16名を次期改選時に14名にすることを全会一致で可決いたしました。他市町との人口比較で論じる方もおりますが、

372平方kmの面積の広さと、予算規模も考慮しなければなりません。定例会、臨時会における当初予算、補正予算の精査、決算審査は私たちの普段の生活に大きな影響を与えます。最少の予算で最大の効果をもたらすための議員の目が必要とされることもご理解いただきたいと思います。(委員長 菅根光雄)

# 広域組合議会の報告

## 北村山公立病院 組合議会

12月24日定例会が開かれ、人事案件や補正予算をはじめとする4議案が可決された。人事案件については、改選期のため欠員となっていた副議長に森一宏村山市議が選出されました。

医師確保については難儀しているところであるが新年度新たに医師3人が増員されることが決まりました。

個人番号についてはマイナンバー制度が始まるが、受診者が個人番号の提示を求められる事は無く、安心して診療を受ける事ができる内容が確認されました。

## 環境衛生事業 組合議会

尾花沢市大石町環境衛生事業組合の臨時会が12月22日開催されました。



建設中のし尿処理施設 (H28年1月)

※なお、議長は大石町・尾花沢市2年交代で選出される。

## 北村山広域行政 組合議会

12月22日村山市議会議場で臨時会を開き、村山市と大石町の議員改選に伴い、新議長に村山市の海老名幸司議員を指名推薦し、一般会計予算を可決し、監査員に新たに大石町の大山二郎議員を選任し閉会しました。

また、水道常任委員長と議会運営委員長に村形昌一議員、衛生常任副委員長に遠藤宏司議員をそれぞれ選任し、監査委員に村岡藤弥議員を選任することに同意しました。ほかに施設修繕にかかるとる平成27年度公共下水道事業特別会計補正予算ほか1議案を原案どおり可決し、閉会しました。

- ### 北村山教育長賞
- ・藤 勢流さん(日本体育大学3年) 上町
  - 平成27年 第20回ハンドボール男子ジュニア世界選手権大会 第18位
  - 平成26年 第14回ハンドボール男子ジュニアアジア選手権 第3位
  - 平成24年第5回ハンドボール男子ユースアジア選手権大会 第2位
  - ・田村 希さん(北村山高校3年) 原田
  - 平成26年度全国高等学校総合体育大会 スキークロスカントリースキー女子5kmフリースキル優勝
- ### 北村山教育奨励賞
- ・渋谷 一波さん(山形東高校1年) 隼気
  - 平成26年高田宮杯第66回全日本中学校英語弁論大会決勝大会出場
  - ・石山 柁平さん(北村山高校1年) 行沢
  - 平成26年度 第52回全国中学校スキー大会
  - 男子5kmフリースキル第3位
  - 男子リレー(山形県チーム) 第2位
  - ・北村山高校スキー部
  - 平成26年度 全国高等学校総合体育大会
  - 女子総合第2位 男子総合第12位
  - 男子リレー第6位 女子リレー第6位
  - (毎年、全国高等学校総合体育大会に出場)



他に東根市の三部航平さん、青野朱李さんも教育賞を受賞されており、受賞された方々は、東京オリンピックを目標とし、渋谷さんは英語に関する職業を目指していると抱負を語ってくれました。